

## 日本の精神科看護の父”宮本真巳”と語ろう ～精神科看護における対人関係論の伝承～

○津田 哲也<sup>1)</sup>、宮本 真巳<sup>2)</sup>

1) 国立精神・神経医療研究センター病院 医療観察法病棟、2) 元亀田医療大学看護学部

看護学生なら「プロセスレコードをどのように書いたらいいのだろうか」と誰もが迷ったはずです。精神科で働く看護師なら「患者さんとのことでモヤモヤするんだけど、これはどういうことなんだろう?」と立ち止まったことがあるでしょう。精神科の看護教員なら「感情豊かな学生を育てたいけど、どうすればいいのだろうか」と日々、悩まれているかもしれません。

着目すべき点は「思考よりも感情」であり、「異和感」であるわけですが、そのあたりを明確に伝えてくれる指導者は、もはや壊滅状態です。

宮本先生は半世紀にわたり対人関係における自己の「異和感」に着目し、その異和感を基として対人関係を構築する意義を説かれています。「プロセスレコードの活用法」「異和感に対自する方法」「感情活用の方法」など、感性を磨くための方法論を積み上げてこられました。

きっと看護学生であっても、精神科で働く看護師であっても、精神科の看護教員であっても、このワークショップに参加されると、ハッとさせられることが多くあると思います。

昨年に引き続き本年も多くの方に集まっていた、時と場を共にしながら、宮本先生と会場の皆さまとの「対話」を中心に会を運営したいと思えます。

そして、精神科看護の父である宮本先生から、精神科看護の対人関係論を引き継いで行こうではありませんか。

参加はどのような立場の方の参加も歓迎します。これまで宮本先生にお会いしたことのない方はもちろん、十分、親交を深めて来られた方も含めて、どなたのご参加も楽しみにしています。

実際、昨年、宮本先生をお招きしたワークショップを開催しましたところ、大変に盛況で、会場に入

りきれないほどの参加者でした。後日、参加者の意見を聞きますと、「対人関係について教えてくれる指導者がどこにもいなかったけど、宮本先生に感化されました」「行動療法などの教育者はいても、マニュアルや作法に毒されていて自らを投げうって指導してくれる人はもうどこにもいないのだと思っていましたが、宮本先生は違いました」などの声があがりました。1回の会で終わらせるのではなく、宮本先生がお元気な限り継続した伝承の場が必要なのです。是非、事前の参加予約をしていただき、ご参加くださいますようお願いしたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

なお、倫理的な配慮として、参加された方の発言における個人情報、他にもらさないことをよろしく願いいたします。また、本ワークショップにおける開示すべきCOIはありません。